

生ごみの資源活用モデル事業 企画案

2024. 3. 11

グリーンリンク生活学校（北区）

古賀 由希子

令和5年の家庭ごみ排出実態調査から、可燃ごみ厨芥類のうち調理くずが約77%と多いことが分かっています。今後、国内バイオマスの有効活用や環境保全型農業の推進を考えると、都市の生ごみを資源として活用推進をしていくことも必要であると考えています。現在は、生ごみ削減についての計画と周知啓発しか施策がない状況ですので、学びあいと実践の場＝コミュニティガーデン（農園）をつくり、住民参加で行う「生ごみの資源活用モデル事業」を考えてみました。この企画案は、東京都北区資源循環推進審議会と NPO 法人北区リサイクラー活動機構に提出し、公益財団法人あしたの日本を創る協会の政策提言助成を受けました。

1. 事業目的

・都市の生ごみを資源として活用することを推進するため、学びあいと実践の場＝コミュニティガーデン（農園）をつくり、持続可能な地域社会づくりに貢献します。

2. 事業実施の背景

《法制度について》

- ・「都市農業振興基本法」農林水産省 平成27年
- ・第五次環境基本計画 「地域循環共生圏 平成30年
- ・グリーンインフラ活用型都市構築支援事業 国土交通省 令和2年
- ・「みどりの食料システム戦略」農林水産省 令和4年

《住民ニーズ》

2015年 都政アンケート

- ・農業体験をしたいと思う世代 30代では70%となった。子育て世代である
- ・最も少ないのが、60代以上の46%

2023年 コロナパンデミックにより、更にニーズが高まった

- ・アグリメディア社 シェア畑 ▶各地平均2倍
- ・マイナビ社 農mers ▶登録8倍
- ・アグリトリオ社 農How ▶登録5～6倍
- ・クラインガルテン（ドイツ）▶2倍

≪グローバルな動向≫

SDGs 目標

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを

*** ローカル SDGs を自分ごとに！**

3. 事業内容

(1) 見学・学習の実施

- ・住民の意識・主体性の活性化のため先進事例を共有し、自分たちの足元の北区のまちづくりの担い手の拡大と養成を行うため、学びあう場を設ける

事例1. まちづくり

- ・山形県長井市 農のある暮らし協議会
農のある暮らし計画書「レインボープラン」(1997年～)
「循環」「ともに」「土はいのちのみなもと」
- ・兵庫県神戸市 平野コープ農園
公民連携都市型農園 コミュニティ再生実証実験「エディブルパーク」
アーバンファーマーミング推進事業(2020年～)

事例2. 生ごみファーム

- ・東京都日野市 日野せせらぎ農園
「ひの・まちの生ごみを考える会」地主さんの援農で市民が運営
- ・東京都足立区 六町エコプチテラス(2002年～2007年)
住民有志によるコミュニティガーデンの企画、区画整理事業用地の区有地を暫定活用し、整備と運営も。環境教育の拠点に

事例3. 江戸野菜

- ・東京都墨田区 たもんじ交流農園
「すみだの夢応援助成事業」ふるさと納税型クラウドファンディングを活用、NPO 法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会運営

(参考) 東京都北区 滝野川八幡神社「滝野川カブ品評会」 NPO 法人北区もりあげ隊

事例4. 子ども・子育て支援

- ・東京都国立市 コミュニティ農園くにたち はたけんぼ
「農業・農地を活かしたまちづくり」事業協議会にて市民が運営する新しい農園モデルを検討 任意団体くにたち市民協働型農園の会→NPO 法人くにたち農園の会 運営
- ・東京都練馬区 こどもの森
「果樹や畑のあるプレーパーク」公設でJV運営（プレーパーク系 NPO 法人プレイタンク・ビル公園管理業・造園業）



はたけんぼ

事例5. 農福連携

- ・東京都杉並区 すぎのこ農園
「杉並区農福連携事業基本計画」23区初めて公設での農福連携農園 令和3年よりJA東京中央が運営受託
障がい者や近隣保育園の団体利用やバリアフリーの工夫

事例6. 土地に関して

- ・千葉県柏市 カシニワ制度
空き地を地域資源として活用する手段となる制度（2010年～）
市民と行政とで協力して空き地に手を加え、住民みんなが自由に使える「おにわ」
- ・富山県富山市 富山市コミュニティガーデン事業実施要綱
都市公園条例で禁止の植物の採取について収穫をわかち合う目的で処分可の特例措置



すぎのこ農園



(2) 生ごみの資源活用・実践

- ・「greenlink コミュニティガーデン（農園）」

～生ごみを資源に！学校給食の食循環の次は北区の生ごみの資源化を試みる～

《コミュニティガーデンコンセプト》

- ・だれもが安心して食べる心豊かに暮らす“地域の居場所”となるコミュニティガーデン（農園）
- ・循環型／健康／人がつながる／多文化共生
- ・共同農地と小さな貸し農地の区画をつくり、貸し農地を有料にして経費に充当する
- ・余剰作物は、地域・子ども食堂や地元レストランで地産地消へ

回収方法

1. 生ごみのステーション回収
2. 店舗・事業所などへ資源回収車（自転車）の運行

処理方法

1. 微生物分解 コンポストたい肥化
2. 乾燥による減量については、再エネ電力自給も合せた検討
3. 事業者（五十嵐商会）に委託

利用方法

1. コミュニティガーデンで土に還元
2. 地産堆肥として植木市などのイベントで配布または販売
3. 学校の総合学習での活用

《候補地》

- ・音無親水公園、豊島のエコベルデ、王子5丁目旧桜田中学校跡地、北の台エコー広場館跡などの公共地
- ・特に一般区民の参画のしやすさを考慮したい



ビールかすの回収



子ども食堂へ



浮間生産緑地